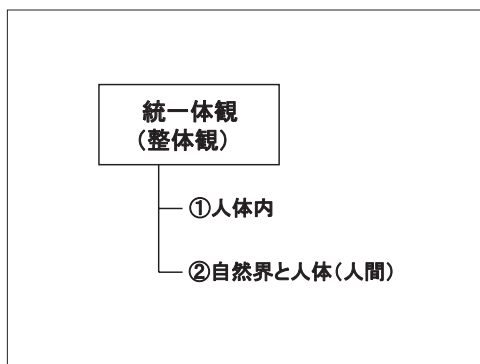




中医学の 人体のみかた

1-1 統一体観

東洋医学の大きな特徴は、人体をバラバラに見ていくのではなく、1つの統一体として見ていくところにあります。全体像をしっかりとらえ、その全体像のなかで個々がそれぞれどういう役割を担っているのかを考えていくのです。そして、個々が個々のままバラバラに存在するのではなく、体内環境においてお互いにどのような関連性をもって生理的な営みをしているのかを見ていきます。そうした観点を「[]」,あるいは「[]」といいます。



1-2 五行の色体表

「五行の色体表」を見てください。

色体表

五華	五液	五神	五志	五主	五根	五腑	五臟	五味	五色	五氣	五季	五行
爪	淚	魂	怒	筋	目	胆	肝	酸	青	風	春	木
面色	汗	神	喜	血脈	舌	小腸	心	苦	赤	暑	夏	火
唇	涎	意智	思	肌肉	口	胃	脾	甘	黃	濕	長夏	土
毛	涕	魄氣	憂	皮毛	鼻	大腸	肺	辛	白	燥	秋	金
髮	唾	精志	恐	骨髓	耳	膀胱	腎	鹹	黒	寒	冬	水

一見、各項目はバラバラに並べられているようですが、この「五行の色体表」は、体内における諸関係、あるいは自然界と人体との関係が、とても密接であることを表現しています。ただし、これをどう解釈するのか、これを実際にどういうふうに臨床に応用するのかは、この表を眺めているだけではわかりません。これから学習する東洋医学的なものの見方・考え方をベースにすることによって、この「五行の色体表」を臨床で活かしていくことができるのです。

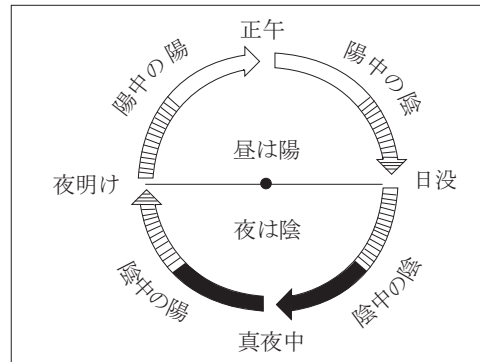
1-3 統一体観

自然界と人体との関係も統一体観の1つです。まもなく夕暮れで、日が落ちていく様子を思い浮かべてください。日中は非常に暑くて明るいですが、これからの時間は涼しくなって、寒くなって、そして暗くなっていきます。中国伝統医学では、この移り変わりを陰陽の変化としてとらえています。

例えば、明・暗ということでイメージすると、明るいのは太陽で、暗いのは月ということになります。暑い・寒いということでイメージすると、陽のほうが暖かそうなイメージで、陰のほうが寒そうなイメージです。このように、陰陽の考えにもとづいて見ていくと、1日の移り変わりにおける、陰と陽との関係が少しずつ見えてきます。

1-4 1日の陰陽の変化

朝日が出て、それからおよそ正午、1時ぐらいまでは、どんどん明るくなって暑くなってきます。陽の力がどんどん強くなっていきます。配布資料の右側のところに1日の移り変わりがあります。



ちょうどお昼が白の部分で、陽の力が非常に強くなっています。ただし、その後お昼を過ぎると、白い部分が下降線をたどっていきます。それに伴ってこんどは黒い部分、闇の世界がどんどん広がってっていきます。これも、1日における自然界の陰陽の移り変わりを表したものです。地球上で生活しているわれわれは、絶えずこの影響を受けて、エネルギーをもらったりしているのです。

1-5 四季の陰陽の変化

四季で見ると、春・夏・秋・冬の移り変わりに応じて、われわれの体は無意識に季節の変化に耐えられるように自己調整を行っています。

例えば、これからだんだん暑くなりますが、体はどうなろうとしているのかといえば、発汗しやすくなるような体調を作っていこうとしているのです。冬になって寒くなると、こんどは汗腺が閉まって、できるだけ体のエネルギーを体外に漏らさないように、いわゆる閉じこもりの態勢になります。自然の移り変わりに応じて体調を作っていっているわけです。これが自己の調節機能です。



こぼれ話 1-1

〔 気象異常の
人体への影響 〕



こぼれ話 1-2

〔 気象異常の具体例 〕

